慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	革命期の羅馬に於ける社会闘争（下）(続「羅馬の社会闘争及び社会思想」)
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1924
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.18, No.6 (1924. 6) ,p.808(44)- 818(54)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19240601-0044

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

革命期の羅馬に於ける社會闘爭（下）

（續「羅馬の社會闘爭及び社會思想」）

高橋誠一郎

六

斯くの如き方策は支配的貴族階級と商人階級及び貧民階級との間に存したる不純不誠實なる協定を攪亂するに資する所更らに大なるものがあつたであらう。後の兩階級は元老院が單に恐怖に由りて不本意ながら其の一切の讓歩を與へたることを善く知つて居つた。感謝の念若しくは利益の考慮に由つて永く元老院の支配に繫がるゝことなき是れ等兩階級は彼れ等に對して其の以上のものを提供せんとする者に對しては勿論、單に同等のものを提供するに過ぎざる凡ゆる自餘の支配者に對しても直ちに同樣の勤務を提供せんとしつゝあるものであつた。斯くて復古政府は正統なる貴族政治の希望及び見解と僧主政治の組織及び政策とを以て其の支配を續けた。其の支配は啻だにグラッカスの其れと同一基礎の上に立てるのみならず、其の力も亦た之れに比して劣るとも優る所なきものであつた。そは庶民と提携して貴重なる制度を破壞せる場合に於いては强大であつたが、民衆に對立し、商人の利益に對抗せざるを得ざる場合には全然無力であつた。（Mommsen, op. cit., S. 129-130.）。

貴族は自己に對して小土地保有者を買收するの法律的許可を與へ、而して彼れ等を放逐すること次第に多きを加へたるが爲めに、農圃は海上の雨滴の如くに消滅した。經濟上の寡頭政治が少くとも政治上の其れと相並んで發達せるの事實は、全市民中に在つて二千の富裕なる家族を看出すこと難しと做せる、穩和なる民主主義者ヒリッパス（Lucius Marcius Philippus）が約紀元前百年の交に言明せる所に依つて明かである。而して實際上這般の事態を説明するものは奴隷一揆の再發であつた。

七

羅馬人は太初よりして奴隷を所有して居つた。然も古羅馬人の間に於ける家

計の小なりしと其の生活法の單純なりし事實に由つて奴隷の數は猶ほ言ふに足らざるものであつた。然るに大地産は漸次に發達し來り、奴隷は軍務に徴せらるゝことなきが故に特に其の使用は耕作上有利なるものと爲るに至つた。殊に紀元前二百〇一年に於ける第二カータゴオ戰役の終局並びにマケードーニア及びシリアに對する優勝後に於て多數の奴隷を以てする大地主の耕作は著しく增加した。而して國民經濟は資本主義的方針を以て遂行せられ、羅馬人は世界の君主たる光榮に醉ふて、勞働無産階級を蔑視せるが故に非自由勞働者の運命は愈々益々悲慘なるものと爲つた。奢侈の風愈々瀰漫し、前代未知なる多數の欲望は是れに由つて生せしめられた。而して時の經過に連れ、彼れ等の間には希臘人に倣つて工業上の目的の爲めに奴隷を使用するの風を生じた。無數の奴隷は豪奢なる建築と別莊の造營とに使役せられた。

奴隷の或る者は其の主人の家内に於て生れ、vernæと稱せられた。彼れ等は特に忠實正直なるものと看做され、從つて又た一定の自由を享有した。自餘のものは大部分戰役の捕虜より成り、然らざるものは奴隷制度の存したる他國より輸入せられた。戰役に於て捕獲せられたる者は凶事奉行によつて即時其の場に於て、若しくは最近の市場に於て賣却せられた。即ち當時の術語を以てすれば、彼れ等は「槍の下に」(sub hasta)若しくは捕虜の頭上に其の賣物たるを示すが爲めに被らしめたる「綵環の下に」(sub corona)賣却せられたのである。斯くの如き目的の爲めに奴隷商人は常に羅馬の軍隊に從つて居つた。不斷の戰役は幾十萬の奴隷を供給したが、而も是れ等のものは未だ以て羅馬の富豪の所要を滿足せしむることを得なかつた。是に於て乎、人獵は起り、勾引は行はれた。奴隷商人は羅馬及びディロス(Delos)の如き主たる奴隷市場に於て多數の奴隷を購入した。奴隷は恰も海外より輸入せるものは白堊若しくは石膏を以て其の足を白く塗り、其の鄕里、年齡、能力、並びに若し何等かの缺點ある場合には之れをも示すが爲めに其の首の廻りに附箋して臺の上に立たしめられる。賣手は是れ等の記述の正確に對して責任あるものであつて、彼れにして若し是れ等の點に關して毫も責任を負はざる時は、是れを表示するが爲めに奴隷の頭上に無緣帽(pilleus)を被らしめる。其の秀麗、其の技巧若しくは其の文學上又たは音樂上の技能によつて卓越せる奴隷は公然展覽に

供せらるゝことなく、特殊の場所に於て之れに對して購買能力を有する者に縱覽せしめらるゝのである。家内に於て生れたる者も亦た陳列せらるゝことなく、私的契約に由つて賣却せられる。

同一の主人に屬しつゝある一切の奴隷、即ち famuli を包含する名稱たる familia は概して田園の其れ（familia rustica）と都市の其れ（familia urbana）とに分たれる。田園に於ては農業、園藝及び家畜の保護、橄欖、葡萄の栽培、蜜蜂、家禽の飼養等の諸部門に對し、又た獵場及び魚塘に對して特殊の奴隷が存して居つた。是れ等の奴隷は農場保管人（vilicus）若しくは執事（actor）の監督の下に置かれ、後者は又た主人若しくは其の代理人に計算書を提示しなければならなかつた。羅馬の奴隷は法律上に於ては單なる動産物件に過ぎずして、從つて又た絶對に何等の權利をも有することなく、全然其の主人の專恣に從はなければならなかつた。主人は彼れ等を驅つて最も野鄙卑陋なる事務を行はしめ、之れに慘刑を加へ、若しくは之れを殺し、或ひは彼れ等にして老朽若しくは虚弱と爲りたる時は之れを投棄することが出來た。特に殘忍なる待遇を受けたるものは田園の奴隷であつて、彼れ等は伊太利亞の大部分に在つて鐵鎖に繫がれて勞作し、夜は前述せるが如き警護せられたる仕事場（ergastulum）中に閉じ込められ、其の或る者は熱鐵を以て烙印を施され、若しくは其の頭髪の一半を剃られてゐた。從つて地方に送らるゝは都市の奴隷に取つて峻嚴なる刑罰であつた。逃走を企つるものは死を以て處罰せられた。奴隷殺害の普通の方法は磔刑であつた。一奴隷にして其の主人に對し復讐を企てたる場合には其の際同一家屋中に存したる總べての奴隷は彼れと共に死刑に處せらる可きものであつた。奴隷に對する一般の待遇が如何に慘酷であつたかは高德を以て聞えたる、かの大ケートー（Marcus Porcius Cato）が彼れに奉仕しつゝありし間に其の勞働力の總べてを消耗せる其の老奴隷を單に賣却せるに過ぎざりしが爲めに稱揚せられたるに由つても尙ほ之れを窺知することが出來る。

八

大農場に於ける奴隷の集中は必然不軌暴動を誘起しなければ已まなかつた。伊太利亞に於ける最初の奴隷一揆は紀元前百八十七年にアプーリーア（Apulia）に突發したが、直ちに鎭定せられて七千の奴隷は磔刑に處せられた。羅馬人は百三

十三年には首府に於て百五十人、ミンタネー（Minturnæ）に於て四百五十人、シンニュエッサ（Sinuessa）に於ては四千人の奴隷を捉へて之れを殺さなければならなかつた。又た凡そ同一の時代に於てディロスの大奴隷市場及びアッチカの銀坑に在つては兵力を以て奴隷の叛亂を鎮定しなければならなかつた。小亞細亞に於けるバアガモン（Πέργαμον）王ユーミニーズ（Εὐμένης）二世の私生子アリストナイコス（Ἀριστόνικος）及び其の新たなる「日の都」（Ἡλιούπολις）の市民に對する戰爭は實質上叛起せる奴隷に對する土地保有者の戰爭であつた。然も是れ等のものに比して遙に殘虐を極め、遙かに長引けるものはシヽリアに於ける大奴隷一揆であつた。

豐沃なるシヽリア島は奴隷勞働を使役す可き廣大なる界域を與へた。彼の地に在つては國有地は大農場、即ち廣大なる龍圃、橄欖栽植地及び放羊場と爲つてゐた、多數の奴隷は土地を耕し、樹木を栽植し、羊の群れを警護して、此の島を羅馬の倉廩たらしめたのである。此の地、殊に其の内地に於ては久しく盜賊横行して刼掠を行ひつヽあつたのであるが、軈がてそは擴大して一揆と爲るに至つた。エンア（Enna, Henna）の富裕なる農場主 Damophilus は其の奴隷の爲めに殺害せられ、猛惡なる團集はエンアの都市に亂入して暴虐を逞しうした。一揆は軈がて戰爭と化した。叛徒を指揮せるものはシヽリア人の王 Antiochus と號したるシリア産の奴隷 Eunus 及シリシア産の奴隷 Cleon であつた。彼れ等は其の周圍に武裝し得る七萬の人々を嘯集し、全島は殆んど完全に其の勢力に歸した。數年間彼れ等は羅馬軍に抗して其の地歩を維持したが、終にトローミーニアム（Tauromenium）及びエンアの攻取によつて鎮定せられた。執政官バイソー（Lucius Calpurnius Piso）及びリユービーリアス（Publius Rupilius）は二個年間エンア市を圍み、武力よりも寧ろ飢餓に依つて之れを降した。此の百三十四年より同二年に亙れる第一シヽリア奴隷戰爭は恰もグラッカスが羅馬を激動せしめつヽありし際に發生せるものである。

シムブライ（Cimbri）戰役の初年を通じて奴隷一揆はノーチエーラ（Nocera, Nuceria）、カピユーアの如き伊太利亞内の諸地に於て、又たテュリアム（Thurium, Thurii）の領域に於て年々勃發した。最後の謀反は極めて重要なるものであつて市奉行が一軍團隊の兵を將ゐて進んだにも拘らず、纔かに裏切によつて之れに打勝つことが出來た。此の百〇四年の謀反に對して首領たりしものは奴隷に非ずして、負債の

淵に沈みたるが爲めに其の奴隷を解放し、自ら其の王と稱するに至れる羅馬の騎士 Titus Vettius であつた。

九

紀元前百〇四年より同一年に亙れる第二シヽリア奴隷戰爭は亦たTryphon王と號したるシリア產の奴隷 Salvius、並びにシリシイア產の Athenion によつて指揮せられた。百〇二年を以て Tryphon 死し、執政官兼總督アクイリアス（Manius Aquilius）が自ら Athenion と戰つて之れを斃したる後羅馬軍は漸くにして決死の對抗に打勝ち、糧道を斷つて、其の最後の陣地を死守しつゝありし叛徒を征服した。

奴隷保有者の最惡なる不正を抑制せんとせる政府の企圖は此の奴隷戰爭の近因であつた。シヽリアに於ける自由民中の貧困なるものが奴隷に比して殆んど優ることなき境遇に在つたことは第一奴隷戰爭に於ける彼れ等の態度によつて明かであつた。即ち叛徒の擁立せる「新王」の勇敢なる「將軍」たりし希臘產の奴隷 Achæus が同島を遍歷するや、啻だに粗野なる牧人が遠近よりして其の旌旗を望んで群り來れるのみならず、農場主に對して毫も好意を有することなき自由勞働者も亦た叛徒に味方したのである。第一奴隷戰爭が鎭壓せられたる後、羅馬の投機者は其の復讐を行ひ、地方の自由民の多數を其の奴隷中に加へたのである。元老院は之れを非とするが爲めに百〇四年嚴烈なる條例を發したるが爲めに當時、シヽリアの總督たりしナアヴア（Publius Licinius Nerva）は自由の主張を決定す可き法廷をシラキユーサ（Syracusæ）に開設した。幾許ならずして奴隷所有者に不利なる判決は八百件に達し、係爭事件の數は日々に增加した。是れに由つて恐慌を來せる農場主等はシラキユーサに急行し、總督に逼つて這般の司法事務を停止せしめんとしたのである。ナアヴアは之れに威脅せられて、裁判を請求しつゝある非自由民に告ぐるに、彼れ等は須らく權利及び正義に對する其の煩勞なる要求を拋棄して即時自ら彼れ等の主人と稱する者の許に復歸す可きことを告げた。斯くの如くして其の訴訟を棄却せられたる者は總督の命じたるが如くに行動せずして、却つて謀反を企てたのである。洵に此の第二シヽリア奴隷戰爭は復興せる貴族政治の內部的性質を立證するものである。

（附記）吾人が「革命期に於ける羅馬の社會鬪爭」中に於て叙述せんとせる所のもの

は固より之れを以て盡きたのではない。不日題目を新にして吾人は其の續稿に着手せんことを期する。

（一九二四年五月）

雜　錄

THORSTEIN VEBLEN.

Frank W. Fetter.

Graduate Student in Harvard University.

I.

Introduction.

Biographical sketch

Veblen comes of a family in which the pedagogic instinct is strong. His brother, Andrew Veblen, was for many years professor of Physics at the University of Iowa, and his nephew, Oswald Veblen, is professor of Mathematics at Princeton. He is of Norwegian ancestry. The first information we have in regard to his life is that he graduated at Carleton College, Minnesota in 1880, where John B. Clark taught from 1877 to 1881. He took graduate work at Johns Hopkins and secured his Ph. D. at Yale in 1884. He was fellow in economics at Cornell University in 1891–1892, and at the University of Chicago in 1892–1895. For three years he was reader and associate at Chicago, in 1896 was made instructor in Economics there, and in 1900 was promoted to assistant professor. From 1896 to 1905 he was managing editor of The Journal of Political Economy. In 1906 he left Chicago and from then until 1909 was associate professor at Leland Standford. From then until 1917 he was professor at the University of Missouri, leaving as a result of trouble at the outbreak of the war. Since 1917 he has taught at The New School For Social Research, in New York City. This school was started by a group of men, prominent among whom were Charles A. Beard and Wesley C. Mitchell, for the purpose of bringing about a closer coordination between the physical and social sciences. Veblen gives one course there, "Economic Factors in Civilization."